

新飯能

発行 日本共産党
飯能市委員会
973-1091

金子とし江
972-6401
山田とし子
973-4710
新井たくみ
978-0175
滝沢おさむ
972-3875

<議員団の連絡先>
973-2111(市役所416)
Mail jcp-sigi@
pluto.plala.or.jp

生活できない!

住民税の納付書にビックリ

この間、「格差社会」をマスコミが取り上げ、市民の大きな関心事になっています。

「格差拡大」の原因は、高額所得者や大企業への減税を強める一方で、庶民へは雇用の破壊、年金・医療・介護など社会保障費の削減と庶民増税が押しつけられているからで、こんなことをしては「格差と貧困」は、ますます広がる一方です。

六月はじめて平成一九年度の市・県民税の納税通知書が各家庭に送られ、「なんだこりゃ!」「間違いないの!」「ショックで働く気力がなくなっただけ」怒りの声が寄せられています。

増税の実態

Yさんの場合

Yさんは七〇才年金生活、夫婦二人で年間約三〇〇万円の年金収入で生活しています。

Yさんは「説明書には、



住民税の負担増 (単位円)				
	平成17年	平成18年	平成19年	前年比増額
市民税	3000	20000	35800	15800
県民税	1000	12200	22800	10600
合計	4000	32200	58600	26400
所得税・確定申告				
源泉徴収額	50442	55564		
納税額	40500	35190		
国税還付金	9882	20374		
介護保険料				
本人	45700	52500	52500	
配偶者	36600	42000	42000	
合計	82300	94500	94500	



滝沢おさむ
6月13日(水) 10、
●区画整理問題Ⅱ見直し案について。都市計画道路について。雨水排水、

市民要求かかげて

日本共産党議員団の一般質問

「一九年度から税源移譲により所得税がへり、その分住民税がふえる」とあって我が家の場合は前年比八二%の増税である。しかし、前々年比では一四・六倍と信じられないような大増税。また、減るはずの平成一八年度の源泉徴収は、約五・五万円。さらに一九年度は、定率減税が全廃され、老年者非課税措置が徐々に廃止される。一方、来年二〇年からの「後期高齢者医療制度」では、保険料が年金から天引きされ

る。介護保険料と両方では、月額一万円にもなるらしい。入るものが減って出るものばかりが増えたのでは、必然的に人間らしい暮らしなど到底できるものではない」と話しています。

Kさん70歳 年金収入270万円

年 度	住民税額
平成17年	5700円
平成18年	36500円
平成19年	68600円

*所得税との調整はしていません。

未舗装道路、老朽化道路について。岩沢南部地区の下水道、岩沢北部地区の下水道について。●放課後児童プランについて。児童クラブについて。大規模児童クラブ解消に向けて。双柳児童クラブの状況について ●教育再生会議第二次報告について ●南小畦川の市の改修について

金子としえ
6月14日(木) 14、
●「消えた年金」問題、社会保険庁解体でうやむやにするのは許されない。市長の見解と飯能市の対応について ●山手町用地土地利用計画について ●責任共有制度と自治体融資の拡充について ●西武鉄道からの負担金の使途について ●主要地方道飯能下名栗線、永田地域・バイポー付近に押しボタンス式信号機の設置を

「平素から国民を監視下において、いざというときに弾圧や抑圧をおこなうことにあるのではないか」といっています。武力集団である自衛隊が政府の政策や自衛隊の活動に批判的な市民や政党の活動を監視しているのかと思うとぞっとします。安倍内閣の「美しい国づくり」の恐ろしい実態がまたひとつ明らかになりました。

●飯能市の保育について ●こどもの医療費無料化の年齢拡大を ●障害者医療費の窓口払いをなくすこと ●震災時のトイレ対策にマンホール上に設置できる簡易トイレを ●ひとりぐらしの高齢者や障害者の状況把握と情報提供は? ●川寺上野線の第一保育所前に信号機の設置を

「こんなことは許されてはならないことだというところで、告発していただきたい」ということが本人からあったことを明らかにしています。自衛隊という軍隊が、政府・自衛隊の活動が市民や政党の活動を監視していたのです。自衛隊のイラク派兵に反対する活動だけではありませぬ。「医療費負担増の凍結・見直し」「年金改悪反対」「消費税増税反対」「国民春闘」などの運動、「小林多喜二展」のとりくみなど、普通の国民の活動や運動を自衛隊が日常業務として実施していたのです。志位委員長は自衛隊がこうした活動をおこなっている狙いを「平素から国民を監視下において、いざというときに弾圧や抑圧をおこなうことにあるのではないか」といっています。武力集団である自衛隊が政府の政策や自衛隊の活動に批判的な市民や政党の活動を監視しているのかと思うとぞっとします。安倍内閣の「美しい国づくり」の恐ろしい実態がまたひとつ明らかになりました。

波 紋

勇気ある内部告発です。記者会見で志位委員長は情報提供者の意図について「こんなことは許されてはならないことだというところで、告発していただきたい」ということが本人からあったことを明らかにしています。自衛隊という軍隊が、政府・自衛隊の活動が市民や政党の活動を監視していたのです。自衛隊のイラク派兵に反対する活動だけではありませぬ。「医療費負担増の凍結・見直し」「年金改悪反対」「消費税増税反対」「国民春闘」などの運動、「小林多喜二展」のとりくみなど、普通の国民の活動や運動を自衛隊が日常業務として実施していたのです。志位委員長は自衛隊がこうした活動をおこなっている狙いを「平素から国民を監視下において、いざというときに弾圧や抑圧をおこなうことにあるのではないか」といっています。武力集団である自衛隊が政府の政策や自衛隊の活動に批判的な市民や政党の活動を監視しているのかと思うとぞっとします。安倍内閣の「美しい国づくり」の恐ろしい実態がまたひとつ明らかになりました。

飯能で3番目、職場で初めて

新電元に職場9条の会を結成

国民投票法が強行され、改憲の動きが強まる中、日本を「戦争する国」に

変えないために、「憲法9条みんなで守ろう！」

と「新電元・9条の会」

が5日、一丁目クラブで20名の参加で発足総会を行いました。

飯能には、「九条の会・飯能」「奥むさし文化9条の会」が活動して

いますが、職場にできた「9条の会」は初めてです。

一部の総会は、野口和友さんの司会で始まり、「九条の会・飯能」の事務局長の杉田実さんから

連帯の挨拶があり、代表

委員の石関正春さんが、

2004年6月、9名の

著名人による9条の会のアピールが発表されてから、職場に作ろうと6名の呼びかけ人が中心になり学習会などを重ねてき

て今回の発足に至った経過と、今後の会の運営、

申し合わせ事項、財政などについての報告がありました。

憲法9条改悪を阻止す

るためにあらゆる行動をして行く。会の行事の計画やニュースの発行、財



日本共産党大演説会

6月15日 (金) 午後7時～
さいたまスーパーアリーナ さいたま新都心駅そば

貧困と格差、年金、憲法改悪
くらしと平和の危機をどう打開するのか



志位和夫 委員長がお話しします。



弁士 **紙 智子** 参議院議員



あやべ 澄子 党くらし・福祉対策責任者

「かにや」前からバス2台が出ます。
バス代 1000円



政は賛同者の募金でまかなうとしています。
●当面の行動
8月3日朗読とピアノコンサートのため
(市民会館小ホール)
絵本「ミサコの被爆ピアノ」の朗読と被爆ピアノ演奏

無言館に「高麗峠」の絵

奥武蔵文化9条の会が平和ドライブ

奥武蔵文化9条の会は25日、松代・大本営跡、山本宣治顕彰碑、無言館の見学を中心として「平和ドライブ」を乗用車2台で行い、11名が参加しました。

松代・大本営跡では、研究者で追悼碑を守る会事務局長の原山さんの一時間半にわたる説明と案内を受け、どういう立地条件で松代が選ばれたか、

二部では「日本国憲法の諸原則を“自分のものとして”まもりぬこう!!」とくに、第九条・平和主義を」と題して、平和国際教育研究会会長の森田敏男さんの記念講演がありました。

朝鮮人の強制労働の実態、権力のねらいなどを理解することができました。無言館での2枚の「高麗峠」の絵は、この画学生と奥武蔵を結んでいることに、思わず涙を流し、

山本宣治の顕彰碑の前では、78年前、暗黒時代に正義を貫いた山本宣治の「生きざま」に想いを寄せ、地域での憲法9条を守る闘いに、「草の根から頑張る」決意を改めて固めました。

片道200キロの日帰りには少し強行日程でしたが、信州そばを食べ、足湯につかり、古寺を散策し、「良かった。楽しかった」の一言でうれしい企画になりました。
奥武蔵文化9条の会 佐藤 弘

立憲主義を 否定する改憲論

(2)



日本国憲法とくに九条は時代にあわなくなっている、どこの国でも憲法改正をしているのではないかと改憲論者は言います。しかし、奴隷制を暗に認めているような条文を無効にしたり、女性の参政権を認める条文を加えるというように、立憲主義の精神にのっとったものに修正したり、立憲主義の原理にもっとしっかり根をおろした憲法に変えようとした改憲の例はありますが、およそ近代国家で立憲主義の原理そのものから離反するような改憲を企てた国はありません。それは、その国が民主主義の国であることを否定するにひとしいことだからです。

ところが、いま私たちの周囲では、「戦後レジーム(体制)からの脱却」という安倍首相のスローガンにかっさいして、立憲民主主義の歴史と意味をわきまえずに「改憲」を言いつける人たちが大手をふるっています。

日本をむかしのようなくさく軍事国家にさせないためには、憲法もつ意義についての理解を一層深め広げていくことが必要です。「改憲」の口車に乗せられたり、だましの手口にはめられたりしないようにすることは、私たち自身に対してだけでなく子や孫の時代に対して私たちが負わなければならない重大な責任です。

(池田貞夫)